



酪農危機下を生きる酪農家たち

文・写真 下門直人



山下牧場

注意・お願い

家畜伝染病予防のため、施設内への無断立入りはご遠慮下さい。

なお、入場される方はタイヤ・靴の消毒、農場訪問者記録簿への記帳をお願いします。

※ 衛生管理区域のため立入禁止



大山乳業農業協同組合の組合員、山下正太氏とその家族が経営する山下牧場。山下正太氏（下左）と敏子氏夫妻（下右）。山下牧場は家族で管理できる範囲で経営を行い、経産牛及び未經産牛、和牛あわせて56頭の牛を飼養している。





鳥取畜産や鳥取県生協、コープしが、地元企業、生産者などの出資により設立された「みんなの牧場」。鳥取県最大規模の酪農メガファームであり、牛舎では約 600 頭の経産牛と約 80 頭の和牛が飼養されている。みんなの牧場は、鳥取県の酪農業や農業の生産基盤の維持、そして大山乳業農協が生乳を安定調達できる環境整備などを目的として設立された。また、生協が出資する背景には、生産への関与を図ることで持続的な産直牛乳や産直牛肉の取引を実現したいという生協の思いもある。



コップしがとの産直「鳥取みんなのつながり和牛」になる和牛の子牛（左）。家畜の排せつ物をバイオマス発電や敷料、たい肥にして飼料稲・飼料米生産に活用することで循環型の酪農・畜産・農業の実現を目指している（右）。



みんなの牧場の岡本郁久社長（左）と鎌谷一也会長（右）。「今、酪農生産は非常に厳しい局面に直面している」と語る鎌谷会長。これまでは和牛販売など副産物収入も含めることで酪農経営が成り立っていたが、昨今の生産コスト高に加え和牛価格の下落などが重なったことで、もともと低かった現在の乳価では生産を維持することは極めて困難な状況にある。みんなの牧場では国や鳥取県からの補填を含めても、昨年は約7,000万円の赤字であった。